

家庭排水と道路側溝

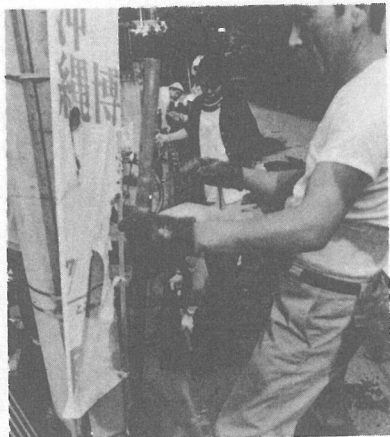
道路側溝がないため、家庭雑排水が流せない。幹線道路ばかりへ側溝をつけるのは不公平だ！



疑問に答える その2

道路の側溝へ、台所や風呂場から出る生活雑排水を流している家庭が多いようですが、本来道路側溝というものは、路面へ落ちた雨水が周囲の宅地へ流れ込んだり、路上へたまったりすることのないように取り付けるもので、家庭の生活雑排水を放流するためのものではありません。

生活排水等の処理は、大都市のように本格的な下水道施設を設置して、完全処理をすることが理想ですが、ばく大な資金を必要としますし、みなさんにも水道事業の



し尿などと同様に、当面は個々の責任で処理を考えていただくかなくてはなりません。道路側溝は、前記目的の上で緊急性の高いところから、路幅などを考慮しながら逐次整備を進めていますが、生活排水を目的としたものではありませぬので、幅員の狭いところや路面排水上問題の少ないところ等には、未設置の箇所が残されています。

しかし、地域の環境衛生上放置できないようなケースもあるでしょう。このような場合は、関係者のみなさんにも応分の負担を願うことを条件に、排水路を特別に設置する方法もありますので、困りの場合は、担当の福祉保健課へご相談ください。

俳壇

土屋 栗水
春寒し川面に落す煙草の火
成田 様子
千葉の注連ぶつかり合つて豚育つ
宇井 芝童
終車待つ心ごころの余寒かな
向後 雅子
春寒き葱の高畝霜を見し

若梅あやめ
一年が物言ふ年齢や二月寒む
池田 和代
二た声と啼かず寒禽雨に飛び
鈴木 南知
春立つやレタスに振りし塩の音

歌壇

北田 ふじ
横の木の下車擡げばまろき実の

津田 若菜
頭もたげて芽吹きそめいつ
娘が買ひてくれし袖を裁ちをれば
絹の香りの吾をつつめり

吉岡 信子
おもむろに酔ひのまはりて歌はむ
と立てばよろめく老いの足許
六十路すぎ短歌の道に入りゆく心
素直に学びてゆかん
海保恵保子

横芝の碑

<122>

「屋形宮前で三匹猿だけの庚申様を見た」そんな噂を耳にしたのが五年ぐらい前のことです。

屋形宮前

三匹猿だけの図柄というのは県下でも極めて珍しいと聞いておりまして、随分探してみましたが、見つかることはできなかつたのです。

ところが一月の中旬、取材などでよく通り、以前探したことのある屋形宮前のT字路の路傍に、突然に出現した」というように数体の石像を発見したので、自分の不注意にあきれながらも、五年越しに巡り合えた庚申様——そんな喜びを押えて近づいてみました。

整然と並んだ庚申様の群像の向かって一番右側は、邪鬼を踏み付



庚申様と力石

けた青面金剛像で安永乙未十二月吉日(一七七五)、その次も同じ図柄で、寛政十二庚申年十二月吉日(一八〇〇)、と刻まれているが、二体とも邪鬼から下が毀損しており、建立者の名称や礼讃文等は刻まれていません。

おおよそ真中と思われる庚申塔は、三匹の猿だけが刻まれている、これが噂の庚申様だと思われました。しかしよく見ると、背丈も低く、刻銘も見えません。それに上部も不自然に毀損しているところをみますと、独立した庚申様ではなく、右側にあるいづれかの庚申様の台座とみる方が正しいのではないかと思います。

一番左で、重なるように建っている石像は、手前が地藏尊らしい石佛で、後ろの石は高さが三〇センチ、幅が五〇センチほどの方形の石で、ともに刻銘はありません。

方形の石は、他の石とは全く別の材質らしく、黒く滑らかな光沢を見せています。特に磨いたというよりは、長い間人の手に触れていたためではないかと思われまふ。その昔、若者が村の広場等で力くらべをする時に使った力石ではないかと思えます。(中台の寺に、寛政の元号を刻んだ力石というのが残っていますが、この石とほと